

# 令和7年度保健福祉部業務研究等報告会抄録集

## 岩沼地域事務所管内における「にも包括」構築に向けた取組報告

発表者所属・氏名 仙台保健福祉事務所岩沼地域事務所母子・障害班  
技師 村上 海衣、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築コーディネーター 土屋 陽菜

キーワード： 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム、多職種連携、協議の場

### I はじめに

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下、「にも包括」）は、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域で安心して暮らし続けられることを目指し、医療、障害福祉・介護、住まい、就労、地域の助け合い、教育等を包括的に確保する体制である。岩沼管内（2市2町）では、各市町が特色ある取り組みを展開してきた一方で、圏域全体としての課題把握や取組目標の検討が課題となっていた。そこで令和7年度の本活動では、市町を主体とした協議の場を基盤とし、地域アセスメントによる課題整理と優先課題の明確化を図ることで、地域ビジョンおよび圏域のロードマップを策定することを目的とした。

### II 方法

#### 1 対象地域

岩沼管内（名取市、岩沼市、亶理町、山元町）の行政、相談支援事業所、精神科有床医療機関等の関係者

#### 2 検討方法

下記の活動を、都道府県等密着アドバイザーとの検討・助言を得て実施した。

- 1) 地域診断：ReMHRAD等のデータベースを活用し、管内精神保健福祉資源等の量的課題を把握した。
- 2) 意見照会：管内市町にも包括協議の場構成員への事前アンケートにより、質的課題を把握した。
- 3) 協議の場：関係機関によるグループワーク形式の地域アセスメント（第1回）、および管内市町協議の場構成員を含めた結果共有と、今年度の取り組み確認（第2回）を実施した。

### III 活動内容

#### 1 地域課題の把握

事前意見照会で得た質的課題と、地区診断による量的課題を統合し、トピックを抽出した資料を作成した。

#### 2 地域アセスメントの実施

- 1) 名取市、岩沼市、亶理郡（2町合同）の3グループに分かれ、重要と考える課題を抽出。
- 2) 課題を「にも包括を構築する要素」10項目別に分類後、さらに「市町主体」「圏域・県と協力」の階層別に分類した。
- 3) 優先順位マトリクス（重要度×難易度）を用い、各グループで優先課題を5つずつ選定した。

#### 3 結果と評価

市町課題として「多機関連携」「地域の助け合い・普及啓発」「当事者・ピア」が明確化された。また事後アンケートでは、全体的に満足度は高い結果であった。他市町や多職種との交流による顔の見える関係構築、立場の違いによる視点の共有が評価され、参加者の満足度の高さおよび今後の実践への意欲向上が確認された。

#### 4 圏域課題の整理とロードマップ策定

「圏域・県と協力」に分類された課題について、実効性の高い取り組み施策を一覧化し、同様に優先順位マトリクスワークを実施した。その結果、圏域として取り組む際に効果が高い「地域移行」「地域の助け合い・普及啓発」「人材育成」が圏域優先課題として選定された。これらに対し SMART の法則を用いた解決目標を設定し、次年度以降のロードマップを策定した。

#### 5 合意形成（第2回協議の場（予定））

策定したロードマップ案と各市町の取り組みを共有し、令和8年度以降の事業実施に向けた合意形成を図る。

### IV 考察

本活動では、市町を主体とする姿勢を貫いたことで、関係者の当事者意識が醸成され、意欲向上につながった。質的・量的課題を統合し、マトリクスを用いて構造的に検討するプロセスを経たことで、実現可能な課題が可視化され、参加者の納得感と合意形成を強める結果となった。今後は、策定されたロードマップに基づく事業実施と、評価・見直しのPDCAサイクルを回していくことが求められる。

### V おわりに

本活動により、市町・圏域レベルの地域課題について、共通認識が形成された。既存の取り組みを尊重しつつ、支援者が学び合う協議の場は、連携推進の基盤となる。今後は、整理された課題とロードマップを基に、にも包括のさらなる構築推進を目指す。

### VI 引用文献

なし